

Rising sun

朝日町学力向上推進委員会



朝日町学力向上推進委員会では、全国学力・学習状況調査の朝日町小学校6年生・中学校3年生の解答の傾向について話し合いました。そこから見えてきた児童生徒の成果と課題、学習指導の参考となるポイント等について報告します。

<総括> 委員長 竹内康彦

全国学力・学習状況調査の結果から、基本的な生活習慣や学習規律の確立が学力向上に有効であることが明らかになっています。



朝日中学校の学習状況調査の結果を見ると

- 朝食を食べているか ○ 学校の規則を守っているか ○ 学校に行くのは楽しいと思うか
 - いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか
 - 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあるか
- の各項目が他都道府県や本県の平均と比較して高い値となっており、子供たちが安心して、学習に集中できる環境を作ることができるかが学力向上のポイントであることが分かります。

そこで、朝日町小中学校の全教職員が小中学校9年間継続して指導する内容を「あさひスタンダード」として共有し、継続して指導することが大切だと考えます。具体例を挙げてみました。当たり前前のことが多いです。当たり前前のことが当たり前できるよう、心を一つにして指導していきましょう。

☆確立させたい基本的な生活習慣
早寝、早起き、朝ご飯



★そのために教師がやること
家庭との連携・協力、継続した声かけ

☆確立させたい学習規律

- 1 **学習準備**：必要な物が机の上に整理されて置いてある。
- 2 **時間を守る**：ベルと共に授業が始まる。(ベル学)
- 3 **話の聴き方**：していることを止める。話す人に体を向ける。相手の目を見る。
- 4 **ノートの書き方**：指示に応じて板書等を丁寧に書く。
- 5 **提出物**：丁寧に作成し、期限を守る。
- 6 **話し方**：相手に伝わるような声量・速さで話す。



★そのために教師がやること

- 1 次時の準備をしてから、休み時間とするよう指導する。
- 2 授業開始の際には子供たちを迎える。
1時間の流れを見通して授業を行い、終りの時刻を守る。
- 3 聴く体制がとれるまで待つ。適度な刺激を与えて注意喚起する。
- 4 板書内容を精選し丁寧に板書を行う。生徒の書く時間を確保する。
- 5 丁寧に作成することや、期限を守って提出することの大切さを繰り返し指導する。
- 6 場面に応じた声の大きさや速さを示す。

< 国語科 >

分析・課題



- **小学生**は、情景描写を読み取るためのサポートが必要です。一つのことを様々な方法で表現できるようにしたいです。
 - ことわざをあまり知らないようです。日常で使う機会も少ないです。
 - 話し合いでは、ただ話し合うだけでなく、話し合った内容を記録し、まとめる力を身に付けることが必要です。
 - 漢字の読み書きは伸びる余地があります。日常から漢字を使い、読む・書く力を身に付けることが必要です。
-
- **中学生**は、文脈に即して、漢字を正しく書いたり、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使ったりすることは概ねできています。
 - 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができます。
 - 適切に言葉や文を書き換えることができます。
 - 辞書を活用して語句の意味を書くことができます。ただし、知らない言葉やことわざ、慣用句の場合、文脈の中で捉える力が不足しています。
 - 一つ一つの漢字の読み方は知っていても、組み合わせた熟語を知らなかった場合、正しく読めていない生徒がいます。
 - 複数のものを合わせたり、比較したりして、読み取ることが苦手な生徒がいます。

提案・お勧め

- ★ 漢字の学習は、1年間かけて繰り返し書いて身に付けるようにします。〈漢字プリントを毎日するなど〉
- ★ ことわざや故事を書き、意味を調べます。カードに気に入ったものをまとめ、1冊の本になるようにします。
- ★ 書くことに抵抗がなくなるように、日記を書くようにします。進んで表現する気持ちを高めるために、行事があったときやうれしかったことがあったときに文を書きます。次第に時間を設定し、時間内に書き終わるようにします。また、日記を書く際に表現の仕方を工夫するように指導します。
- ★ 根拠や理由を明確にして答えを導き出す指導をします。〈なぜなら、～だからです〉
- ★ 授業で物語を扱う際には、表現が特徴的な部分についてよさや工夫を話し合うようにします。
- ★ 話し合いでは司会者を輪番制にして全員が経験できるようにし、観点をまとめながら話し合いができるようにします。さらに、話し合いの中にいろいろな情報を取捨選択して答えを出す機会をつくっていきます。
- ★ 一人一冊自分の辞書を持つようにします。身近に調べられる環境の中で、辞書を引く習慣を身に付け、辞書や言葉に親しむようにします。
- ★ 分からない言葉や曖昧な言葉は、辞書で調べる時間を設け、ラインを引いたり（2回目はマーカーを付ける）、付箋を貼ったりして語彙を増やします。

<算数・数学科>

分析・課題

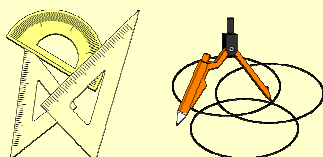
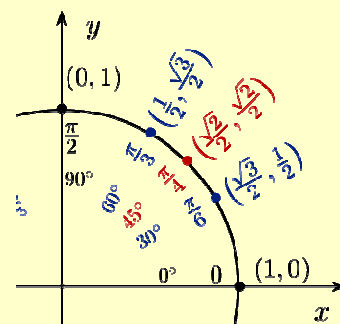


- **小学生**は、基礎的な計算の技能は、正答率が高い傾向にあります。
- 数量や図形についての知識・理解の問題を解くためのサポートが必要です。特に図形の作図の技能を正確に身に付けさせたいです。
- 問題場面を的確に理解して、数量関係を考えることについては伸びる余地があります。問題の意図を読み取る力を育てることが必要です。
- 単位量あたりの大きさの問題では、何をもとにするか（基準量）を見つけるため、線を引く、□（箱）で囲むなどの習慣づけが必要です。

- **中学生**は、正の数と負の数の理解や単項式同士の計算、線対称な図形の作図、空間図形の構成についての理解などの正答率が高いです
- 日常的な事象を表した図を観察し、情報を読み取ることができています。
- 反比例や一次関数など、関数分野の知識を押さえることが必要です。

提案・お勧め

- ★ 筋道を立てて自分の考えを説明する力をつけるために、根拠となる言葉や式をノートに書いたり、ペアで話したりする活動を繰り返し行うことをお勧めします。
- ★ 考えを説明するときは、図や線分図を使う活動等を低学年のときから取り入れていくことをお勧めします。算数・数学の用語を用いて説明する活動を大切にしたいです。
- ★ 問題の意図をつかむため、キーワードになる数量や言葉に線や□（箱）を付けて、問題を解くように指導します。
- ★ グラフを読み取る力をつけるために、社会科や理科等他教科と関連して資料やグラフにかかわる機会を意図的につくりま
- ★ トリオを取り入れて説明したり解いたりする学習活動は、4人より活躍の場が増え、ペアよりも話が進みやすいので効果的です。
- ★ 学習したことの定着を図るため、キーワードを使ってノートをまとめる、振り返りや確かめ（適用問題）をする、プリントに確認欄を設けるなどの支援をします。
- ★ 教科書の確かめや適用問題について、自分がどの段階まで理解できているかを図ることができるように、「～が解けるなら、・・・まで理解できている。」と学習の理解の段階を明示します。
- ★ 関数指導において、日常の事象との関連を紹介したり、考えさせたりして、大凡の感覚を掴ませてから教科的な指導を行います。



朝日町学力向上推進委員の皆さんからのご意見です！

本町の児童・生徒が全国学力・学習状況調査の問題が解けるようになるためには、何をすればよいと思いますか。

学力向上推進委員のメンバーの先生方から3つのポイントを示していただきました。

《学級づくり》

- 学びやすく生活しやすい学級づくり
- 望ましい人間関係づくり
- 児童生徒の実態把握を大切にした学級経営

《授業での指導》

- 根拠や理由をもとに自分の考えを話す、書く力を付ける指導の充実
- 数や式、図、表、グラフなどを使って考えたり説明したりする力を付ける指導の充実

《指導力アップ》

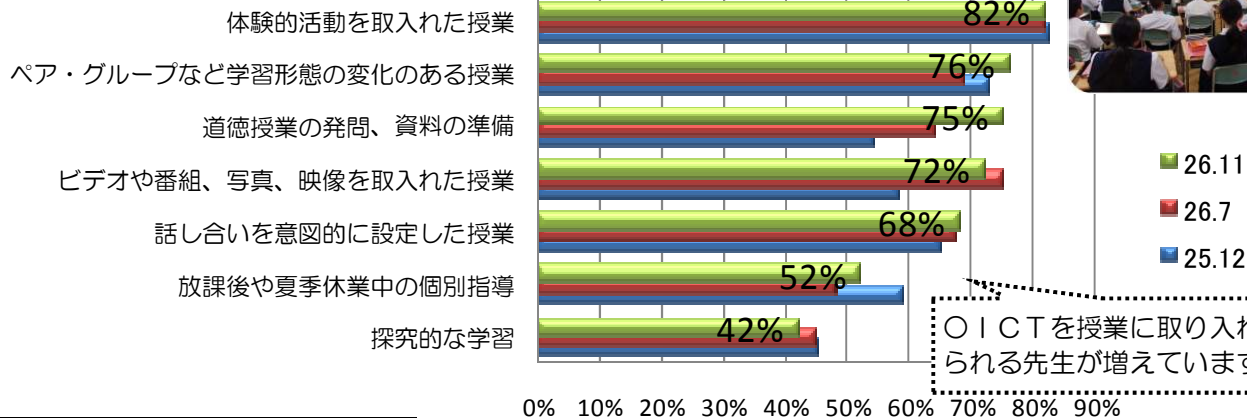
- 町児童・生徒の学力向上を図るため、小中学校の共同研究の実施
- 教職員の指導力向上のための研修会の充実、積極的な参加



授業に関するアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。結果を報告します。
※数値は、平成26年11月に実施したアンケートの「よくしている」「まあしている」を合わせた「している」の回答の割合です。

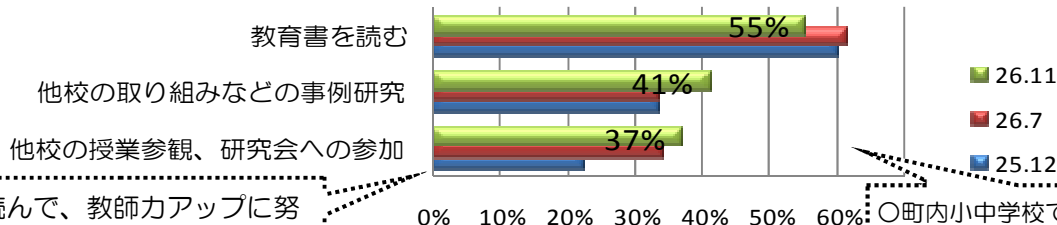
○体験的な活動やペアやグループなどを取り入れた授業の実践に力を注がれている先生が多いです。

授業の取組み



○ICTを授業に取り入れておられる先生が増えています。

教師力を高めるための取組み



○教育書を読んで、教師力アップに努めておられる先生が多いです。

○町内小中学校では訪問研修等で公開授業を行っています。ご参加ください。

朝日町学力向上推進委員

- ▼委員長 竹内康彦
- ▼国語科担当 三井 昭 兵庫秀典 中嶋裕也
- ▼算数・数学科担当 水島真寿美 舟本麻衣 山田智徳

